

国際トラウマリカバリー・カンファレンス 開催報告

2026年7月20日（月・祝）13:00-17:30 | 聖路加国際大学 | ハイブリッド開催・日英同時通訳



一人ひとりのこころの傷が、希望に変わる未来へ

参加・視聴 総数

327名

対面

156名

参加者126/運営等30

Zoom

123名

一般, 応援, 当事者110/招待13

オンデマンド

48名

一般38/招待10

PROGRAM

研究 × 実践 × テクノロジー × アート

講演

MiStory国際共同研究からみるトラウマリカバリー／文化・ジェンダー／TRIP

PANEL 01

トラウマリカバリー × テクノロジー — Trauma Techの可能性と未来

PANEL 02

トラウマリカバリー × アート — 写真・アートセラピー・朗読

主催・共催・助成・協賛

主催：Our Wave / MiStory | 共催：NPO法人Saya-Saya | 助成：米日財団

協賛・協力：北大路書房、医学書院、梨の木舎、成文堂、Guardian、ABELON、ケーオー・システムワークス、ioz.jp、香港理工大学、ヘレニック地中海大学、INSPIRARE Global、European Association of Schools of Social Work、Stand Still、One Billion Rising Japan

国内外の研究者・実践者・サバイバーが集い、トラウマからの回復を「症状の軽減」だけでなく、主体性・つながり・希望の回復として捉え直す一日となりました。

多くのメディアにご紹介いただきました

カンファレンス開催情報が、全国の47メディアに掲載されました。心より御礼申し上げます。

47 MEDIA

掲載・転載を通じて、トラウマリカバリーという視点をより多くの方へ届けていただきました。

01 @DIME (アットダイム)

02 自由が丘経済新聞

03 リビング東京Web

04 中野経済新聞

05 朝日新聞デジタルマガジン & [and]

06 BtoBプラットフォーム 業界チャンネル

07 さんにちEye 山梨日日新聞電子版

08 時事ドットコム

09 赤坂経済新聞

10 毎日新聞デジタル

11 SEOTOOLS

12 時事メディカル

13 ウレぴあ総研

14 Infoseek ニュース (インフォシークニュース)

15 Mapionニュース (マピオンニュース)

16 おたくま経済新聞

17 銀座経済新聞

18 JBpress (ジェイビープレス)

19 東京新聞TOKYO Web

20 品川経済新聞

21 STRAIGHT PRESS (ストレートプレス)

22 茨城新聞クロスアイ

23 市ヶ谷経済新聞

24 ニコニコニュース

25 PRESIDENT Online (プレジデントオンライン)

26 財経新聞

27 下北沢経済新聞

28 八王子経済新聞

29 調布経済新聞

30 東京ベイ経済新聞

31 産経ニュース

32 吉祥寺経済新聞

33 立川経済新聞

34 ジョルダンニュース!

35 東洋経済オンライン

36 テレ東プラス

37 TBS NEWS DIG

38 WalkerPlus (ウォーカープラス)

39 とれまがニュース

40 日本橋経済新聞

41 池袋経済新聞

42 高円寺経済新聞

43 練馬経済新聞

44 新宿経済新聞

45 RBBTODAY

46 シブヤ経済新聞

47 六本木経済新聞

Thank you for helping us share the message: Trauma recovery is possible.

参加者アンケートから見たこと

回答者 62名 | 評価項目の有効回答 n=61 (2026年7月20日～8月31日回答)

100%

参加してよかった

肯定的回答
「とてもそう思う」 67.2%

100%

テーマ・目的が明確

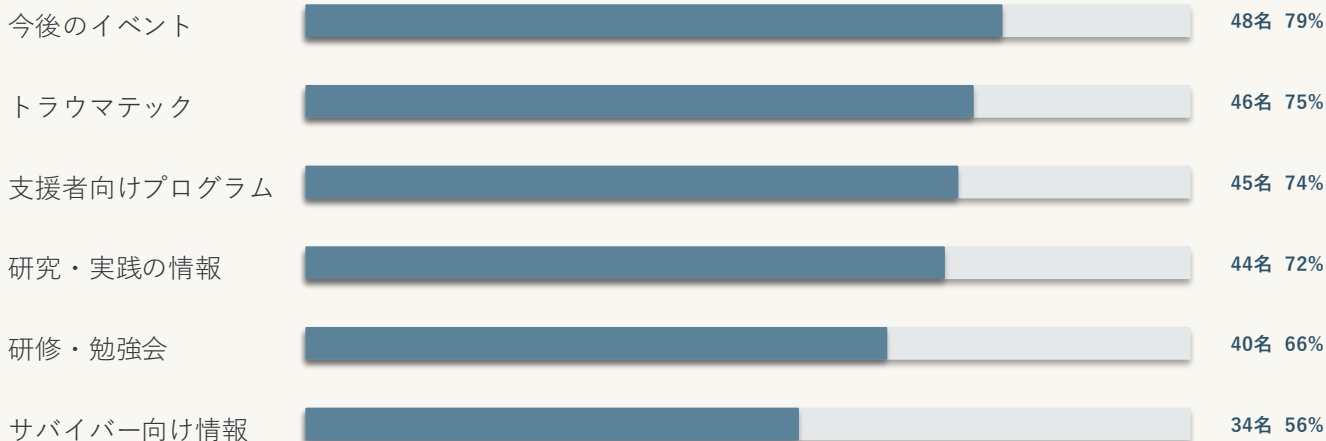
肯定的回答
「とてもそう思う」 68.9%

100%

安心して参加できた

肯定的回答
「とてもそう思う」 68.9%

今後の活動への関心 (複数回答／n=61)



参加者の声

「トラウマについて様々な分野の方々が取り組みされていて、未来に希望が持てました。」

「診断ではなく理解、ノンジャッジメンタルなスタンスであることも、安心できるカンファレンスだと感じました。」

「研究者と支援者と当事者の発表があり、とてもエンパワメントされた。」

「テクノロジーやアートとの融合がとても興味深く、さらに知りたいと思いました。」

今後に向けて

同時通訳の事前案内・練習、翻訳資料、会場で休めるスペース、水分提供、オンライン音声など、運営面への具体的なご提案もいただきました。いただいた声を今後の企画・実践に活かしてまいります。

ご回答くださった皆さま、ありがとうございました。